

# 図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立 あざみ野第一小学校 南澤 寛樹

1. 日時・場所 令和元年12月4日(水) 5校時 場所 図工室
2. 学年・組 第6学年3組 31名
3. 「学習の方向性」から題材へ

<p>「学習の方向性」 感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから表したいことを見付け、主題を効果的に表す。</p>	
<p>子どもたちの姿</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○平面に表すことについては、比較的すぐに活動に取り組み、表現していく。</li><li>○自分の表したいことについて、あまり深く考えず、表す傾向の児童が多いため、活動の途中での「何を表したいの？」という問いかけに対して、明確な答えをもっている児童が少ない。</li><li>○低・中学年に見られるような、大胆な表現をする児童が多い。</li></ul>	<p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○自分の表現の主題を明確にもつことや、主題を効果的に表すことなど、主題を追究することに深まりをもたせたい。</li><li>○高学年では「よさ」「面白さ」に加え「美しさ」について、表現や鑑賞の中で触れていかなければならない。そのためにも「美しさ」を表す経験をさせたい。</li></ul>
<p>題材名 「奏でる木」 ～木の感じを生かして、構成を工夫し心地よいリズムを表そう～ A表現(2) 立体に表す作品</p>	
<p>題材目標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○木を組み上げながら、さわり心地や形の連続する心地よさを感じ、その心地よさを表現することを楽しむようにする。</li><li>○同じ形の連続性の中に「心地よいリズム」をテーマとして表したいことを見つけ、連続した形の美しさを表すために、効果的に木を組んだり、接着をしたりして表すようにする。</li><li>○自他のつくりつつあるもの、作品からよさや美しさを感じ取り、友人と話し合うなどして表すようにする。</li></ul>	
<p>題材について</p> <p>○単一の素材を多数組み合わせ、立体的なオブジェに表す題材である。木材を扱った題材は、3年生でののこぎりを道具とした題材や、4年生のくぎ打ちの技能を使った題材、5年生では電動のこぎりを使った題材など、主に新たな道具を扱う技能の習得に関連したものであった。この題材では、材が5×5×100(mm)と決まっており、そのまま使用するため特に新たな道具を扱う必要はない。</p> <p>そのため、素材の持つやわらかさや、同じ形が連続する中で、イメージを持ち表現主題を表すことなど表現することに集中することができる。</p> <p>今までになかった題材ではあるが、幼児期に積み木をした経験などを想起させるなどして、様々な組み方を試す中で組み方の面白さを追究させたい。そのためには、何百本かの材料</p>	

をグループで組み合わせる経験をしたり、ある程度ユニットをつくることを経験したりする中で発想や構想を広げさせるようにする。

○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ

〔共通事項〕

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

同じ形の木のユニットを連続して構成する活動を通して、動きやリズム、奥行きやバランスなどの造形的な特徴をとらえ、表したい心地よさのイメージをもつこと。

4. テーマに迫るために

高学年部会テーマ  
効果的につくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○研究内容具現化のベースとの関連について

- ・ 出会いの工夫  
グループで、大量の木を組み合わせる造形遊び的な活動を取り入れることで、材料との出会いを楽しめるようにする。
- ・ 場の設定の工夫  
グループで、活動を見合えるようにし接着剤なども共有できるようにテーブルの配置を工夫する。
- ・ 共感的支援の工夫  
グループ内で適宜ミニ鑑賞の時間を作り、お互いの表現の工夫や発想のよさなどを認め合うことで、共感的な雰囲気を作り出すようにする。
- ・ 小中一貫の視点  
導入時構造美に触れることで、また鑑賞時自分の作品や友だちの作品が、町のどこにあったら効果的かということ語り合うことによって、日常の社会生活の中で目にする建築物やパブリックアートなどに興味を持てるようにする。

5. 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	○木を組み上げながら、さわり心地や形の連続する心地よさを感じ、その心地よさを表現することを楽しもうとしている。
発想や構想の能力	○同じ形の連続性の中に表したいことを見つけ。連続した形の美しさを表そうとしている。
創造的な技能	○「心地よいリズム」をテーマとして、表したいことに合わせて効果的に木を組んだり、接着をしたりしている。
鑑賞の能力	○自他の作りつつあるもの、作品からよさや美しさを感じ取り、友人と話し合うなどしている。

6. 指導と評価の計画 4時間 (本時 3/4)

- ア『みんなて組んでみよう』(0.5時間)
- イ『心地よいリズムを奏でよう』(3時間)
- ウ『心地よいリズムを味わおう』(0.5時間)

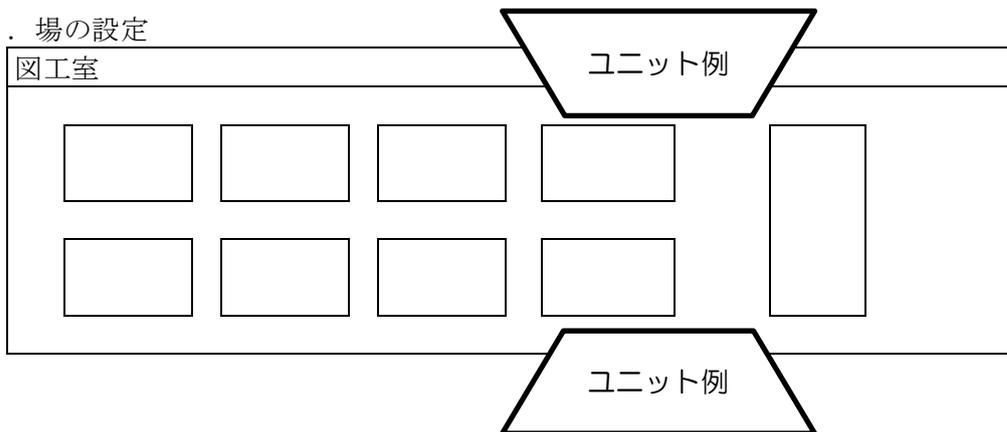
	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
1時	ア みんなで組んでみよう		
	<p>○グループでいろいろな組み方を試す。</p> <p>①なるべく高く組んでみよう。</p> <p>②広がるように組んでみよう。</p> <p>③曲線を感じるように組んでみよう。</p>	関	<p>○友だちと関わるのが苦手な子がいる場合には、順番においていくようにするなど、関われるルールをつくるなどする。</p> <p>○組むことが楽しめるように、グループごとに競わせたり、お互いの組み方を鑑賞したりして、いろいろな組み方の発想の基になるようにする。</p>
2時・3時 (本時)	イ 心地よいリズムを奏でよう		
	<p>○アで試した組み方を基に、自分の「心地よいリズム」を主題に構想を練る。</p> <p>・何本かの木を使ってユニットをつくる。</p> <p>○表現主題に合わせ、木の組み方を工夫しながら表す。</p> <p>・ユニットを集めて、「心地よいリズム」になるように組み上げる。</p>	発 技	<p>○同じ形の連続する美しさを感じられる画像を紹介し、発想の手助けとする。</p> <p>○発想の浮かばない児童に対しては、実際に木を組んでみたりするなど、視覚的な情報を基にできるようにする。</p> <p>○最初にユニットを組むことで、「心地よいリズム」の効果的な組み方を試験的にできるようにする。</p> <p>○接着剤の量が多い児童については、ボンドの容器から直接つけるのではなく、別の紙に出してから、厚紙のへらなどを使い適量を使うよう指導する。</p> <p>○ユニットの組み方によっても印象が変わってくることを紹介し、より効果的に表す助けとする。</p>
4時	ウ 心地よいリズムを味わおう		
	<p>○友だちの作品を鑑賞する。</p> <p>・主題カードを基に、どのような思いをもって作品をつくったのかを鑑賞カードに書き、グループの友達に伝える。</p>	関 鑑	<p>○あまり言葉が出てこない児童については、主題を表現するための工夫が分かるように、主題カードに注目させる。</p>

#### 7. 準備

児 童：木工用ボンド

教 師：角棒（5mm角 10cm×50本）、ホットボンド

8. 場の設定



9. 本時の計画 (3 / 4 時)

本時目標： 連続した形の美しさから、自分の表したい「心地よいリズム」を構想し、組み方を工夫しながら、安定したユニットを組めるようにする。

展開

子どもの学習活動	具体的評価規準と評価方法	教師の指導
<p>イ 心地よいリズムを奏でよう</p>		
<p>○表現主題に合わせ、木の組み方を工夫しながら表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットを集めて、「心地よいリズム」になるように組み上げる。</li> <li>・どのような題名にするのか、考えながら表していく</li> </ul>	<p style="text-align: center;">[発]</p> <p>連続した形の美しさから、自分表したい心地よいリズムを発想し、組み方を考えている。 (観察・対話・ワークシート)</p> <p style="text-align: center;">[技]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい「心地よいリズム」にあわせ、安定したユニットを組んでいる。</li> <li>・組み方に合わせて、効果的な接続方法を選び、接着している。 (観察・対話)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ形の連続する美しさを感じられる画像を紹介し、発想の手助けとする。</li> <li>○最初にユニットを組むことで、「心地よいリズム」の効果的な組み方を試験的にできるようにする。</li> <li>○ユニットの形状によっては、1本ずつ接着しながらくみ上げる方法もあることを伝える。</li> <li>○接着剤の量が多い児童については、ボンドの容器から直接つけるのではなく、別の紙に出してから、厚紙のへらなどを使い適量を使うよう指導する。</li> <li>○ユニットの組み方によっても印象が変わってくることを紹介し、より効果的に表す助けとする。</li> </ul>

# 奏でる木

～木の感じを生かして、構成を工夫し心地よいリズムを表そう～

☆ 木の角棒をさわって、どんな感じがするかな？

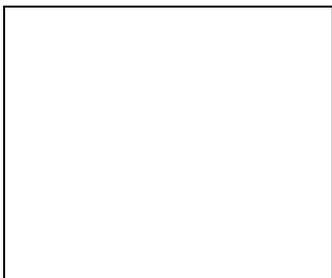
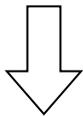
1. 木の感じを楽しみながら、みんなで組んでみよう！

- ①なるべく高く組んでみよう！
- ②なるべく広く組んでみよう！
- ③曲線を感じるように組んでみよう！

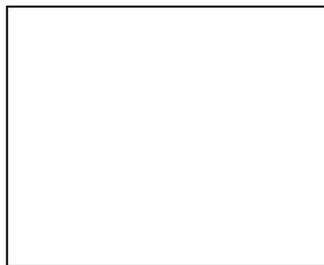
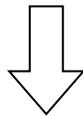
☆きれいだな、美しいなと思ったのは、どんな形？

2. 木の角棒で、ユニット（単位形）を作ってみよう。何種類考えられるかな？

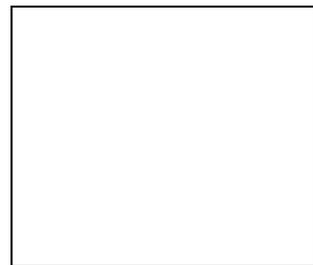
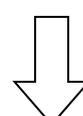
2本



3本



4本



6年 組・氏名

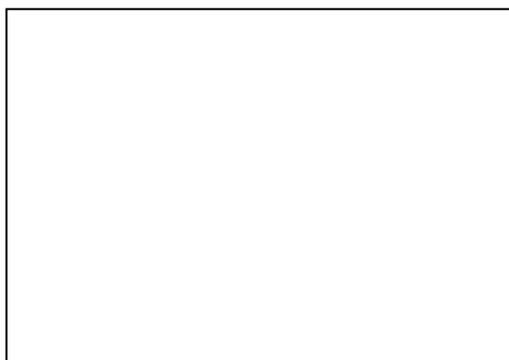
# 奏でる木

～木の感じを生かして、構成を工夫し心地よいリズムを表そう～

## 3. ユニットの連続を考えよう

- 何本かで作ったユニット（単位形）を組み合わせることで、複雑な形になる。
- ユニットが連続した形は多くの人に美しさを感じさせる。

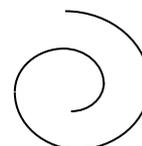
☆どんなユニットにする？



## 4. 心地よいリズムを奏でよう

- 同じ形が少しずつ変化しながら並んだ時に、音楽のようなリズムを感じる時ってない？
- 自分の感じる、心地よいリズムが表現できたら、とても美しい形になるよ！

☆どんなリズムが心地いい？



自分の表したいのは、こんなリズム

☆そのリズムを言葉で表すと・・・

6年 組・氏名